

アンケート結果を受けて改善したいところ 【教育科学系】

難易度について「ちょうどよい」が約6割、「難しい」が約4割というアンケート結果だった。学生に理解してもらえなければ意味がないので、分かりやすい説明を今後心がけたい。

学習目標を到達できない学生がいなくなるように、理解の確認を怠らないようにする。

全体的に授業科目数が多く、多くの科目を一人で担当している。またその中でも3年次に集中しているので、どのように科目間の整合性をとるのかをより積極的に考える。
授業の振り返りの時間をより充実させたい。

・授業の難易度は97.6%の学生は、一回当たりで扱われる授業内容の量は95.1%の学生が「ちょうどいい」と回答しており、現在の授業の進め方を継続しつつ、さらに課題の提示方法について創意工夫していきたいと考えます。

授業で、新しい考えが身についたと答えた学生が強そう思う、ややそう思うを合計すると100%になっており、授業の方針はよかったと思われる。ただし、話し方が聞き取りやすいが42%であり、この点については今後の改善が必要である。

授業科目によっては、問3における①と②の割合が低い。授業用の課題や宿題などを課していないためいたしかたないとも言えるが、何かしらの課題を出して授業の理解度を挙げる工夫も必要かもしれない。

授業外で調べてくる課題を提示することが少なかった。予習する必要があまりなく、進んで深く調べてみようとする内容への踏み込みが不足していた。物足りなさを感じたかもしれない。また、授業の量については、ちょうどよいという学生が多かったが、自分としては多くの情報を伝えたい気持ちが強くて、つい欲張って資料を作りすぎたときもあった。そのためか、一回で示す授業内容の量が多すぎるとの評価もあった。

アンケートの結果から、「内容の興味深さ」や「講義のわかりやすさ」については、おおむね高評価であった。一方で、問3の「自分で調べた」、問4「学生同士で内容を深め合った」については相対的に評価が低かった。学生にとってやや受け身のものであったかもしれない。今後は、「リアクションペーパー」や「グループワーク」などを取り入れ、学生の積極的な授業へのかかわりを増やしていくことを考えたい。

学生がこの授業を受けることにより、もっと知りたい、もっと学びたいと、意欲的・自発的に学習へ向かえるような授業にしようと思う。

問2問3の「自分で調査し深く考え、新たな思考を展開する」といった内容に十分応えられるよう、授業展開を工夫したい。また、「学生同士の深め合い」「教員とのコミュニケーションのとり方」についても、さらに充実するよう時間・場・方法など改善に努めたい。

講義科目では、問2、問3、問4のような、自発的な学習についての質問で「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」という回答が散見された。演習科目では毎回課題を出していたためか、そのような回答は少なかった。これまで講義科目では特に課題を指示することはなかったが、今後は中間レポートなどを課すことを考えたい。

概ね肯定的な評価であったが、問2問3の「自分で調査し深く考え、新たな思考を展開し行動した」といった内容に十分応えられるよう、学生への提示内容をさらに工夫したい。なお、自由記述(1点のみ)については、今後の参考としたい。

教員からの配布物がなかったり、授業自体の目的より各研究テーマの方向性を明示することができず、学生によっては不全感を抱いた可能性もある。個別のディスカッションを行ってもよかったかもしれない。

大学の講義とは、教員から受けた刺激から自ら学びを深めるものと認識している。
当方のアンケート結果では自ら学ぶ時間が短かったため、今後はレポートを課すなどの刺激を課したほうがよいかもしいないと思った。

(この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた)の質問に対して『強く思う』が5%『やや思う』が62.5%であるのに対し、(学習目標が達成できた)の質問に対しては、『強く思う』が0%『やや思う』が32.5%で、多くの学生はあまり目標が達成できたとは思っていないようである。また、(授業で提示された課題を、自ら検索し考えた)の質問に対しては、『強く思う・やや思う』が25%、(授業の難易度)の質問に対して『難しい・難すぎる』が70%であり、新しい知識は身についたが内容が難しく目標を十分達成するには至らなかった、と解釈できる。今後は、授業内容を厳選し、深い理解が得られるよう丁寧に講義するとともに、適宜課題を課し、自己学習を促すように工夫したい。

全般的に高い評価を受けている。特に、授業の難易度として「ちょうどよい」「難しい」を併せて100%であり、水準として非常に良かったことがうかがえる。また、この授業のための週あたりの学習時間も2時間以上が8割近く、受講生が授業内容に興味を持って取り組んでいる様子が見られる。高い学習要求をしていくことが学生の高い水準の学習を保障していくことにつながると言えよう。

重視したい点は問1～3である。この授業で提示された内容についての深い読み取り、疑問や問いが学生に湧き出たか。その発展として一歩深める学びや新たな思考をすることができたか。実際の動きが身についたか。そのために私たちが授業で何を一番学生に伝えたいか、考えてほしいかを明確にすることである。そして私たちが現場で培ってきた子どもの自立の支援や養護教諭という職種の独自性やすばらしさを語りたい。
問12、問13は学生の授業に対する期待や意欲を示している。この結果を真摯に受け止め授業に当たりたい。

授業ではたくさんの内容を扱わなければならなかったため、学生の理解が十分でなくても授業を進めざるを得なかったところが多々あった。授業進度が速い中、内容をできるだけ理解してもらうためには、提示する内容をもっと簡略化して、なるべく直観的に理解できるようにする工夫がさらに必要だと思われる。

新しい知識が得られ、興味を持つ機会としては機能し、学修目標はおおむね達成できたようではあるが、実習等での欠席も見られ、連続性としての授業となっていたかどうか、懸念される。連続性を持って、知識の習得を提供できるよう、工夫していきたい。